

私はメダカのお母さん

徳安 佑香

私は水族館で水の中で自由に泳ぎ回る魚を見るのが好きです。いくら見てもあきません。家でもずっと見ていたいと思いました。ある日、散歩をしながら小川をながめていると小さな魚がいました。メダカでした。メダカだった。たら小さいから家で飼っても育てられると思います。さ、そく、メダカの印をもつてきて、本で

調べながら、家族みんなで飼いはじめました。

「あ、生まれたいよ。」

丸いとう明な印を力い。ぱい屋ひれで割り、

小さな小さなメダカが生まれました。それは

いっしょに人の出来事で、何度も見のがしてし

ま、い、どうしても見たいと思っただその時、ま

るでメダカが

「始めのいっぽ。」

と言ったように、印から飛び出てきました。

尾ひれを細かく動かして水の中を楽しくそうに泳

ぐメダカを見て、これからも大切に育てよう
 と思いましたが。でも、全ての印からメダカが
 生まれこくるわけではありませんでした。目
 ままでできているのに何日待っても印から出て
 こなかっただメダカや、印を割って生まれ来て
 たはずなのに、小さく丸まったまま動けなく
 なるメダカもいました。全部生まれて完気に
 育つ印を想像していた私は生まれる、て大変
 なんだなあ、と思いました。

生まれて二日ほどすると、小さなえさを小
 さな口でパクツと食べました。私があげるえ
 さを食べるメダカがかわいくて、うれしくて、
 つりえさをたくさんあげてしまいます。する
 と父が
 「あんまりあげすぎると、メダカには胃がな
 いから、食べ続けるのがふたんになって死人
 になってしまうよ。」
 と教えてくれました。大切に育てたかった私
 はえさをたくさんあげた「気持ちをおさえこ
 えてつづけるようにしました。」

大切な畜てているメダカはぐんぐん大きく
 なります。水そうを上からのぞいて見ると黒
 イイの字の形をしていたほうのような体のメ
 ダカも、頭やお腹の部分がふくれておたまじ
 やくしのような形になり、さらに尾の方も肉
 がついで細長いなみだのような体形に畜てて
 いました。大きくなるにつれ、目の位置
 や腹びれの位置がかわっていきます。

泳ぎ方も生まれたては尾びれを細かく動
 かして、まるでワンプルしているようにあつた
 のが、大きくなるにつれて尾びれをなめらか
 に、腹びれを鳥が空を飛ぶようにパタパタと
 動かして泳ぐようになつていきました。

私があげるえさをパクパク食べて、元気に
 水そうの中を泳ぎ、日々大きくなつていくメ
 ダカは、わが家の人気者です。

うーん、どこにいるのかな？

と見づらくなつた目を細めて、ニコニコしな
 がらメダカを見つめるおじいちゃん、毎週お
 休みの日に私や兄と一緒によい水そうをまわ

いにしてくれる父、

「佑香、今日えさあげた？」

と私といっしよにメダカを育ててくれる兄、

メダカのおかげで家族の会話や笑顔がさらに

増えました。みんなにも影きょうをあたえる

メダカパワーはすごいなあ、と思いました。

こうやってどんどん大きくなっこのメダカ

かですが、生まれて三ヶ月たとうとしこいた

ある日、水そうを見ると、お腹にとう明なつ

ぶつぶをつけたメダカがスイスイと泳いでい

ました。私はいっしょか人ぶんかと思っただけど

ちがいしました。メダカが卵を生んだのです。

びっくりして、うれしくて、私はあたまたし

てしまいました。そんな私に兄は

「落ち着いて見てみよよい

と言ってくれました。しばらく二人で水そう

を見ていると、卵がついてくるメダカに一匹

のメダカが近づいてきました。卵がついてい

るメダカは何度かしらんやりをしていました

が、そのうち二匹はびた。とく。ついにはずぐ

はなれました。
 「何したのかな？」
 兄と本で調べると、それは交尾でした。
 その後もいろいろなメダカがやってきて、何
 度も交尾をしていました。メダカはいろいろ
 なオスと結こんぶるんだなあ、と思いました。
 次の日の朝、水そうを見ると、水草に印がつ
 いていました。今、その印はスクスクと去っ
 ていきます。生まれる日が楽しみです。

印から生まれましたメダカが育って、また印を
 生んでメダカが生まれる、こうやって命がつ
 なかってゆく、小さなメダカが私に教えてく
 れた、大切なことでした。こゝろな風につな
 がつていく命のバトンを、私は大切にしていま
 した。